

季節は変わる

春は、福寿草やモシロウを目にすると
 心と心がウキウキして、やうやくと嬉
 しくなる。夏は突然やってくる感心が
 する。気温がグリーンと上って、木々の緑が濃
 くなって、季節の物り様を感感する。
 秋が近づく、アサキマダラが山からおりて
 よく目につく様になる。あんなに飛びま
 める、うさぎキトンボが、一匹、二匹、
 こいしが目にしなくなる。
 柿や梨がみえる。食べ頃になり、山を
 歩いていても、山ゴドウ、サルナシ等、口に出
 来る機会が多くなり、高い山の色が変化
 してはいる。

ある朝突然、大霜が降りて身震いする。
 山を歩いてみると、目の前を小さい白いのが
 フワリフワリ。雪虫だ、とおもわれおまが
 出る。春のモシロウをウ、夏のアサキマダ
 ラと同様に目にするだけで嬉しくなる
 出逢い。毎年のことなのに、季節を知ら
 せられる出逢いは、感動してくる。
 待つ、いないようだが、待っている、そんな感じ

アサキマダラの祭り

山の頂上が白くなる朝が多くなり、
 長風と共に雪が今つつきはひめる。
 まだ冬とは実感できないうが、自然と身
 体をまるめて動くようになってくる。
 さて、静かになりあめと感心、朝外を見
 ると一面、まっ白。本当に景色が一変
 してしまふ。この時は嬉しいが、雪は後
 始末があるのが大変だ。
 こんど嵐に、今もそのれれれとの出逢い
 を重ね、とうとう雪虫にめぐりあう
 頃。早く来るとほいような、ないような。



17.11. No. 245
 発行 市岡日誌
 責任 0883-88-5292



十月の祭りとして、手取名頃地区の
 祭りとして、なみかとなつてきた「かか
 し祭り」
 旧名頃小学校への橋が壊れたのが、あ
 しろ好つた(回)様に、お社の小怪には
 本社の妖精が出現し、旧名頃小へ
 の道案内。木かげから、木のてから
 はたまに曲り角へヒョッコリ顔でし
 てる妖精たちが次々と、長がつけ
 ば旧名頃小に着いていった。
 例年の様にかかしサミットやかか
 しの写真コンテスト、そして、ソバ
 アメゴ塩焼、ごまめし、マイタゲごはん
 等々、祖谷の味が食欲をそそる。
 そんな十月のはじめは、た、枝に飛
 れたけれど、なせか心は満ちたこ
 しいだ。
 かかし達の顔やしぐさが無言で何
 かを教えようかという様な気分にな
 って、癒れはじ、へやう。それにこ
 と、かかしのパワーはあなどれないよ。

